

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名 事業目的別歳入債券の有効活用に関する研究 ~我が国への導入に向けた可能性の調査・考察~	
2. 有識者意見の概要及び対応	
<p>有識者：「事業目的別歳入債券の有効活用に関する研究会」メンバー みずほ証券(株) 投資戦略部 チーフクレジットアナリスト 香月 康伸 (株)格付投資情報センター SF本部 部長兼チームリーダー チーフアナリスト 児玉 俊一 (株)損保ジャパン グローバル運用部 担当部長兼金融保証室長 中村 光男</p>	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> なぜ今日本でこの研究をするのかをより明確化するため、例えば、我が国の最近の動向等（破綻法制に関する議論の進展、夕張市の破綻、地方債の投資家層、自治体における資金調達の脆弱性等）を記述するなどして、非常にレベニューボンドの必要性が高まっていることを示すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記を踏まえ、報告書を修正【3.2章】。
<ul style="list-style-type: none"> レベニューボンドの特徴であるノンリコースについて記述する際には、発行体にとってのメリットのみならず、投資家にとってのデメリットやもう一つの地方債であるGOB（一般財源債）には徴税権へのアクセスがあることなども記述してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記を踏まえ、報告書を修正【2.5章】。
<ul style="list-style-type: none"> 米国のオーソリティとはどのようなものか捉えづらい。我が国の公営企業や財投機関との違いがわかると捉えやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記を踏まえ、米国のオーソリティと、我が国の地方公営企業・地方三公社・財投機関との特徴（根拠法、資金調達方法、償還財源等）について比較表を追加【2.8章】。
<ul style="list-style-type: none"> セカンダリー市場の状況について、米国では登録制度が整備されていることが重要な点である。また、投資家が購入した債券に、自分で保証を付けてセカンダリー市場に流通させるようなこともできる。そうした制度などでセカンダリー市場が充実し、それが発行市場の充実につながるといった話がある。これらについても記述が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記を踏まえ、報告書を修正【要旨、2.6章、5章】。